

密着災害 24 時

～その時、現場は動いた～



令和 4 年 8 月 3 日に発生した豪雨は山形県内の農地・農業用施設に多大な被害をもたらした。発生した被害に対して県、市町村、土地改良区はどうか対応したのか。今回はその裏側に密着した。

山形県に大雨特別警報が発令

8/3
19:15

- ▶ 置賜地域の 3 市 4 町に山形県としては初めての大雨特別警報が発令。夜明けと共に市町村と土地改良区は管理する農業用施設の点検へと向う。

県職員、置賜へ派遣開始、現場を支援

8/4
A.M.~

- ▶ 置賜管内では農地への土砂の流入、法面の崩落、水路の破損、ため池の決壊等の被害が各地で発生。置賜管内の災害対策を強化し被害に対応するために 8 月 4 日以降、県庁、各総合支庁から続々と職員を派遣し災害対応に従事する。

8/5
13:40



↑ 山地から土砂が流出し浸食された道路を調査する職員（米沢市）

〈 T o p i c 〉

今回の豪雨では県内各地で観測史上最大の降水量を記録。

3 日に観測史上最大を記録した地点の 24 時間降水量は、小国町 281 ミリ、飯豊町 高峰 292 ミリ、長井市 234 ミリ、米沢市 239 ミリ。

8/10
14:00



↑ 水路の破損状況を調査する土地改良区職員（小国町）



↑ ポンプで応急的に水路に通水（小国町）

市町村は土地改良区や住民から農地等の被害の連絡を受けて随時県に報告。

応急工事で取水対応

8/12
AM～

- ▶ 被災した農地や農業用施設では被害の拡大防止や、取水対応のため応急工事を実施。飯豊町白川幹線水路では山地崩落により水路が埋没、破損等の被害を受けた。8月12日、土地改良区はポンプを2台手配。8月18日にはさらに追加で手配し、追加のポンプや仮設管を設置して農業用水の確保にあたった。



↑排水管を地中に埋設（飯豊町）



↑追加で手配したポンプを設置して取水開始（飯豊町）

8/26



↑水路が破損し農地へ土砂が流入（川西町）



↑破損した水路を土のうとブルーシートで仮修復（川西町）

被害額確定

9/21
21:00

- ▶ 今回の豪雨災害の被害額が確定。県内で平成以降2番目に大きい被害額であった。

～これからの流れ～

査定設計書（測量・設計・積算）作成 ～11月まで

災害査定に向けて、復旧工事の工法や費用の根拠となる資料を取りまとめる。

災害査定 11月上旬～12月上旬

国の災害査定官が被害の原因と程度を確認し、申請された復旧工事の内容と費用が適正なものであるかを現地で査定する。

補助率増高審査 12月上旬～下旬

地元農家の負担を軽減するため、市町村が補助率のかさ上げを国に申請し、審査を受ける。

復旧工事開始